

2004年(平成16年)3月期

決算説明会資料

2004年5月18日

石油資源開発株式会社

Cautionary Statement

Forward looking statements:

Any information contained in this material or in any other accompanying material that are not historical facts are forward-looking statements about the future performance of Japex. These projections entail risks and uncertainties. Actual results and events may differ substantially from these projections.

Non-solicitation of investment:

Any information contained herein should not be construed as a solicitation for investment.

Copyright: Japex reserves all the rights for any material contained herein. Absolutely no duplication of charts, graphs, tables or any other contents is allowed without prior consent of Japex.

本資料もしくは本日お渡しする資料に含まれているデータのうち、歴史的事実でないものは、現時点における当社の見通しを示したものです。実際の業績は、ここに示された見通しから大きく乖離することがあります。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれる全ての表、チャート、グラフ、図表等に関する著作権は当社が有しています。事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

アジェンダ

- ・ **平成16年3月期 実績**
取締役経理部長 佐藤 弘
- ・ **平成17年3月期 業績見通し**
取締役経理部長 佐藤 弘
- ・ **今後の事業展開と当社の戦略**
代表取締役社長 棚橋 祐治

平成16年3月期 実績

取締役経理部長 佐藤 弘

決算ハイライト

16年3月期実績

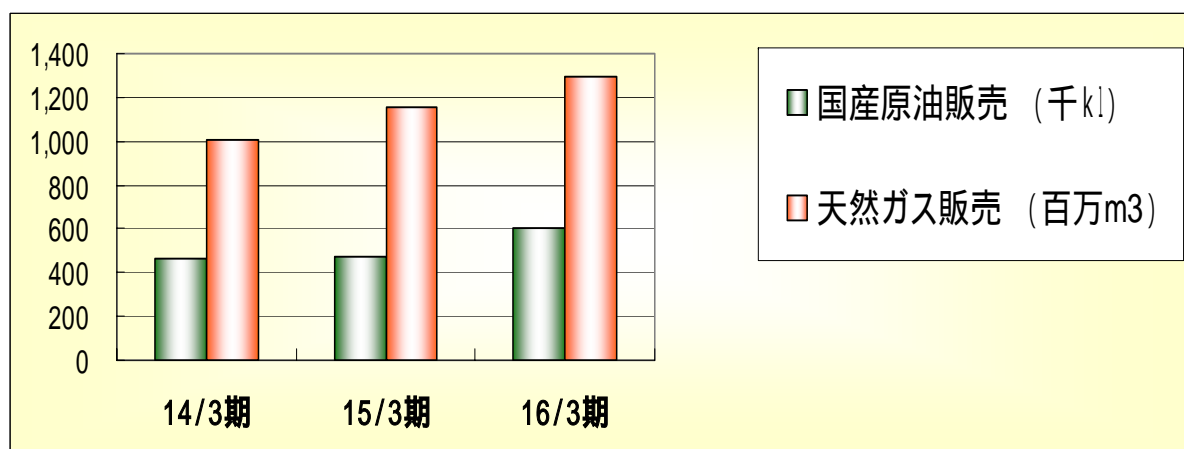
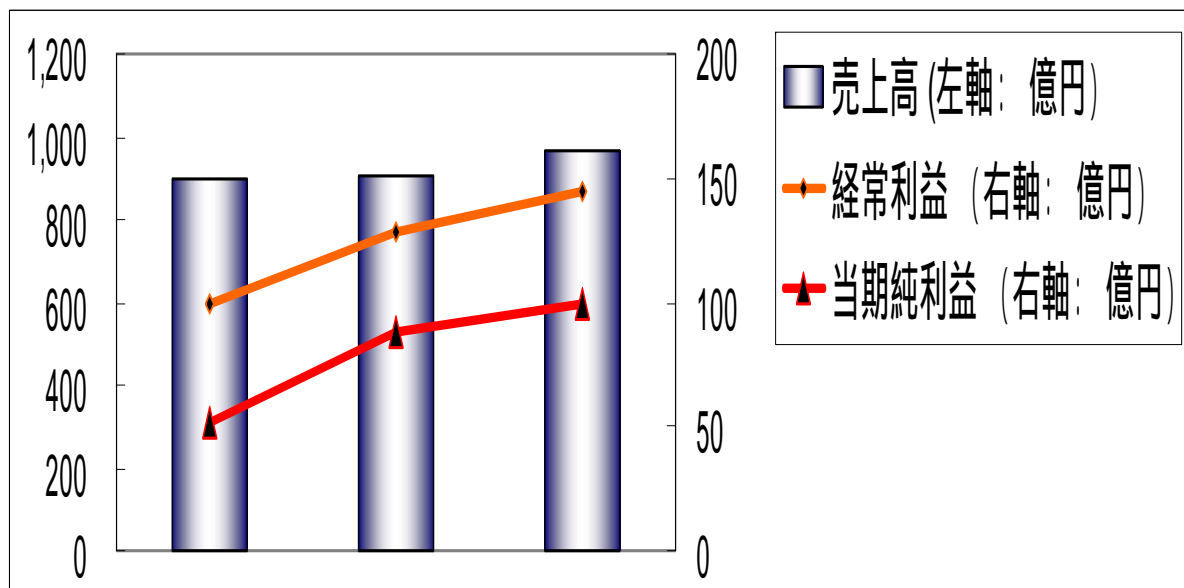
売上高 96,713 百万円
(前年比 + 6.6%)

経常利益 14,468 百万円
(同 + 13.3%)

当期純利益 9,960 百万円
(同 + 12.8%)

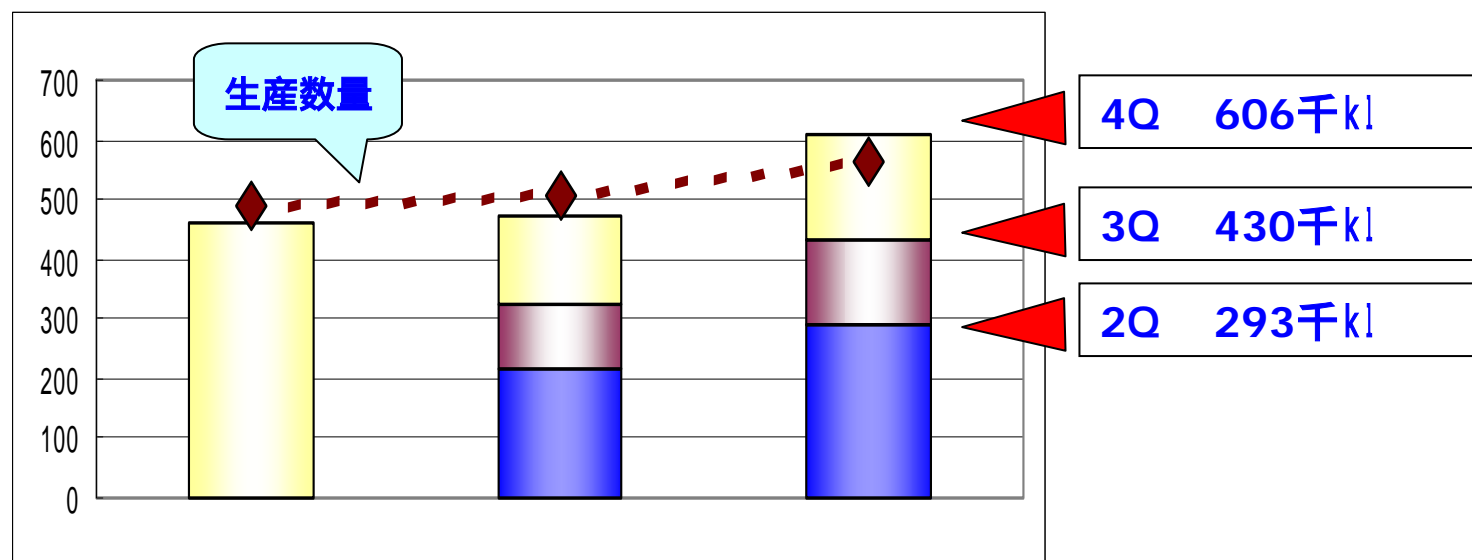
国産原油販売 606千KL
(同 + 28.5%)

天然ガス販売 1,296百万m³
(同 + 12.3%)



国産原油販売

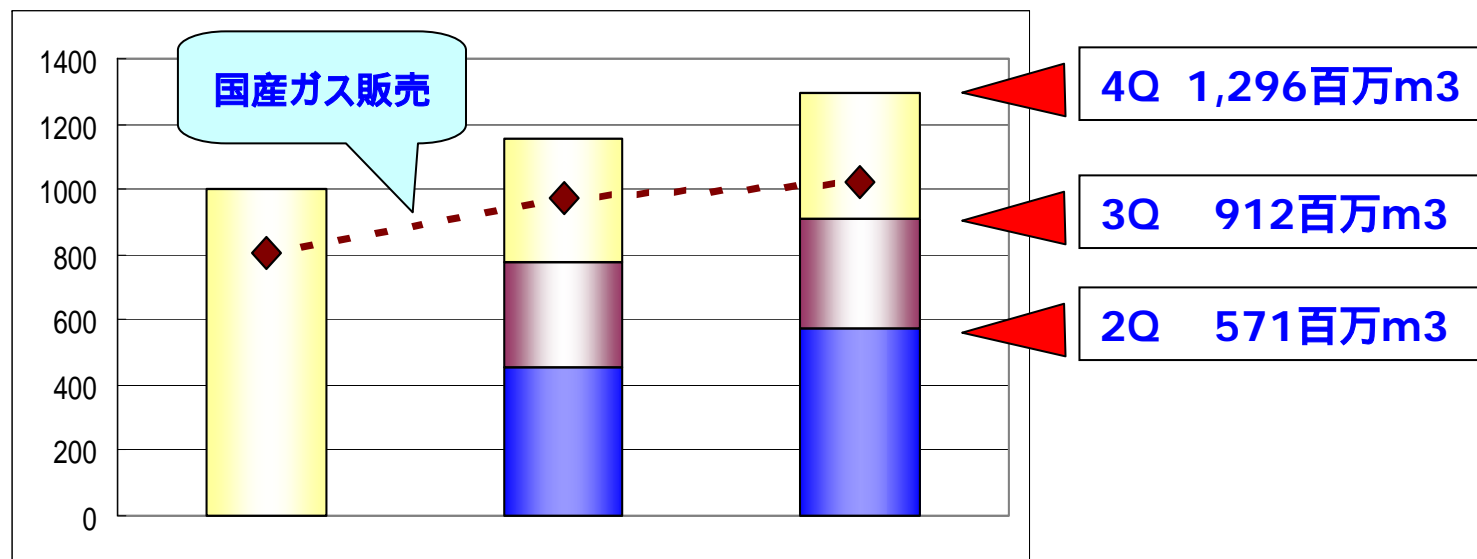
千KL



	14年 3月期	15年3月期	16年3月期	対前年比
生産数量 (千KL)	492	505	571	+66
販売数量 (千KL)	461	472	606	+134
平均単価 (円/KL)	@19,117	@21,680	@21,071	@ 609
油価 (\$/bbl)	24.25	26.50	29.37	+2.87
為替 (Yen/\$)	123.40	122.86	113.71	9.15
売上高 (百万円)	8,827	10,237	12,784	+2,547

天然ガス販売

百万m3



	14年3月期	15年3月期	16年3月期	対前年比
販売量 (百万m3)	1,002	1,154	1,296	+141
売上高 (百万円)	37,394	41,479	42,560	+1,080
平均単価 (円/m3)	@37.29	@35.92	@32.83	3.09
当社国産ガス ¹ 販売量	807	976	1,024	+47
// 売上高	30,290	35,218	33,813	1,405

注1: 連結子会社の日本海洋石油資源開発(株)(JPO)からの買入販売分を含む。

16/3期 実績

連結PL 変動要因

百万円

	15/3期	16/3期	増減
売上高	90,683	96,713	+6,029
売上総利益	38,394	38,653	+258
探鉱費	3,113	5,213	+2,099
販管費	19,452	20,990	+1,537
営業利益	15,828	12,449	3,378
営業外損益	3,058	2,018	+5,077
経常利益	12,769	14,468	+1,698
当期純利益	8,828	9,960	+1,132

国産原油販売 + 25 億円

数量増加。円高で単価は横ばい。

国産ガス販売 14 億円

LNG増で数量横ばい。単価下落。

償却費増加 12 億円

国内探鉱増加 21 億円

勇払販売費増加 6 億円
(償却費除く)

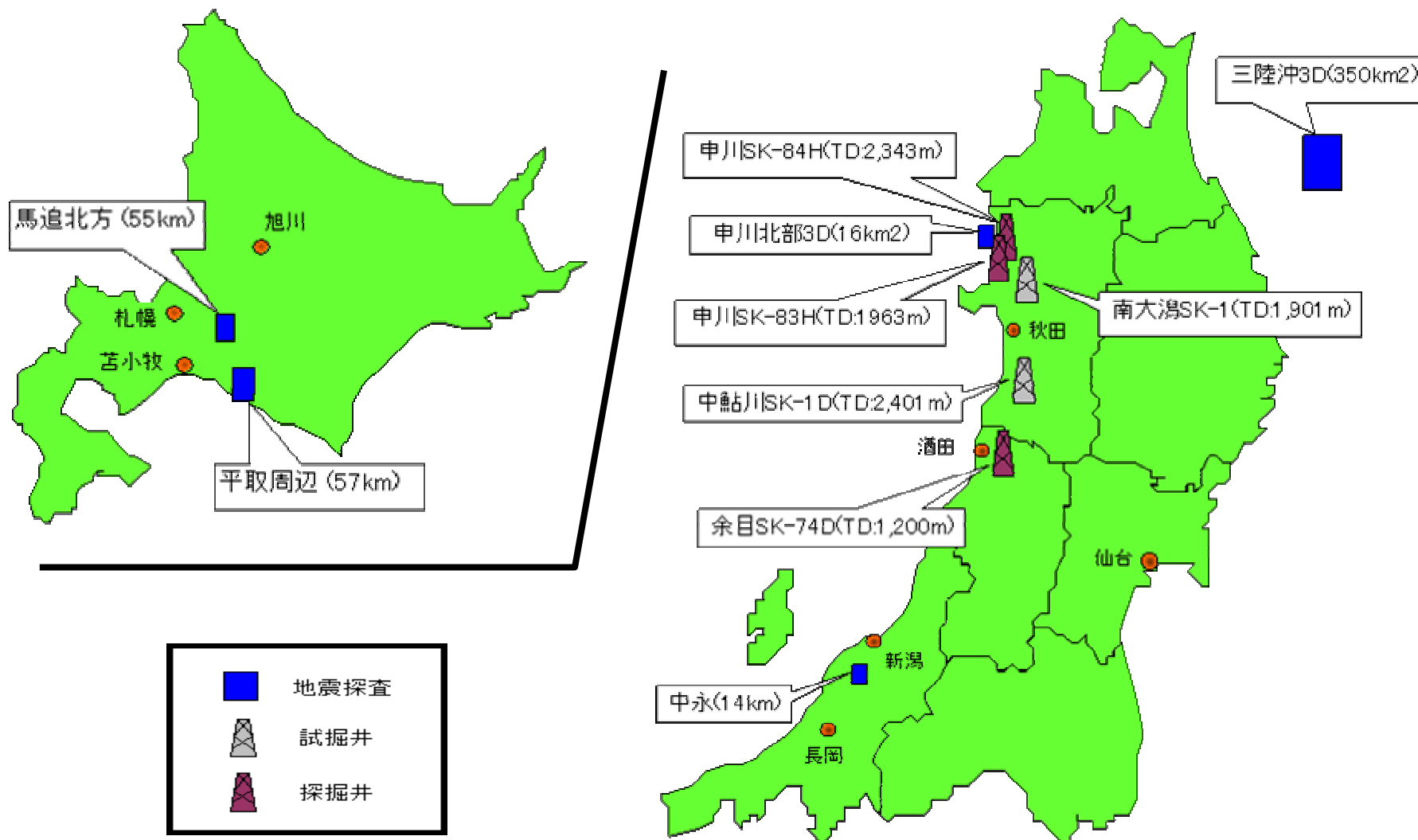
有証評価損の減 + 17 億円

海投損の繰入減 + 12 億円

廃鉱費用引当減 + 8 億円

注: 変動要因の説明は、増益要因を+で、減益要因を-で記載。

主要な国内探鉱実績

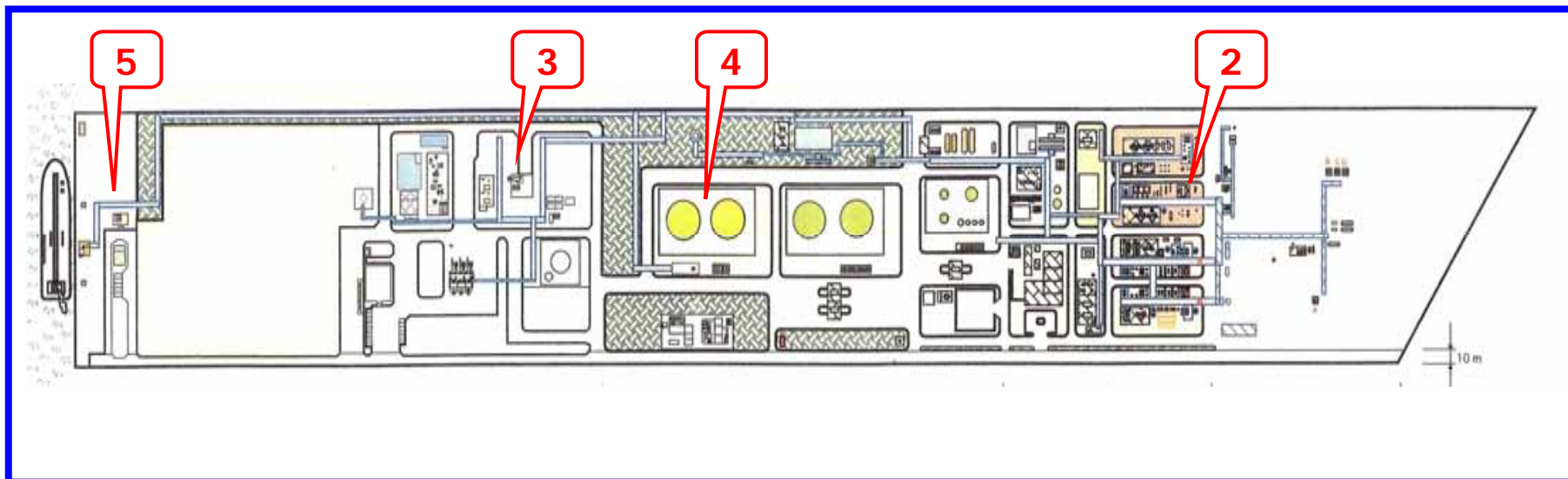


設備投資

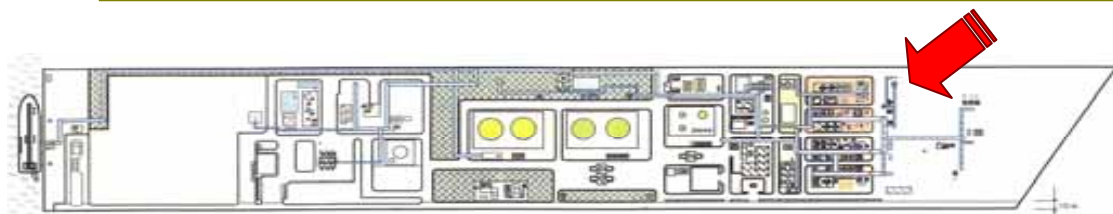


勇払 設備投資 15/3期 - 16/3期

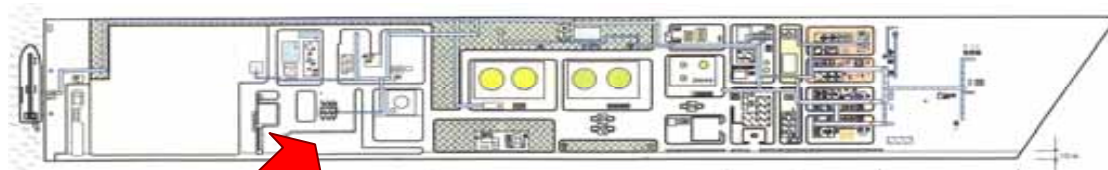
- ・ あけぼの~中央基地 自噴線敷設 - 1
- ・ 勇払中央基地増設 (第3トレイン建設) - 2
- ・ 勇払LNGプラント建設 - 3
- ・ 貯油タンク増設 - 4
- ・ 海上出荷設備建設 - 5



勇払中央基地 第3トレイン



勇払 LNG製造プラント








平成17年3月期 業績見通し

取締役経理部長 佐藤 弘

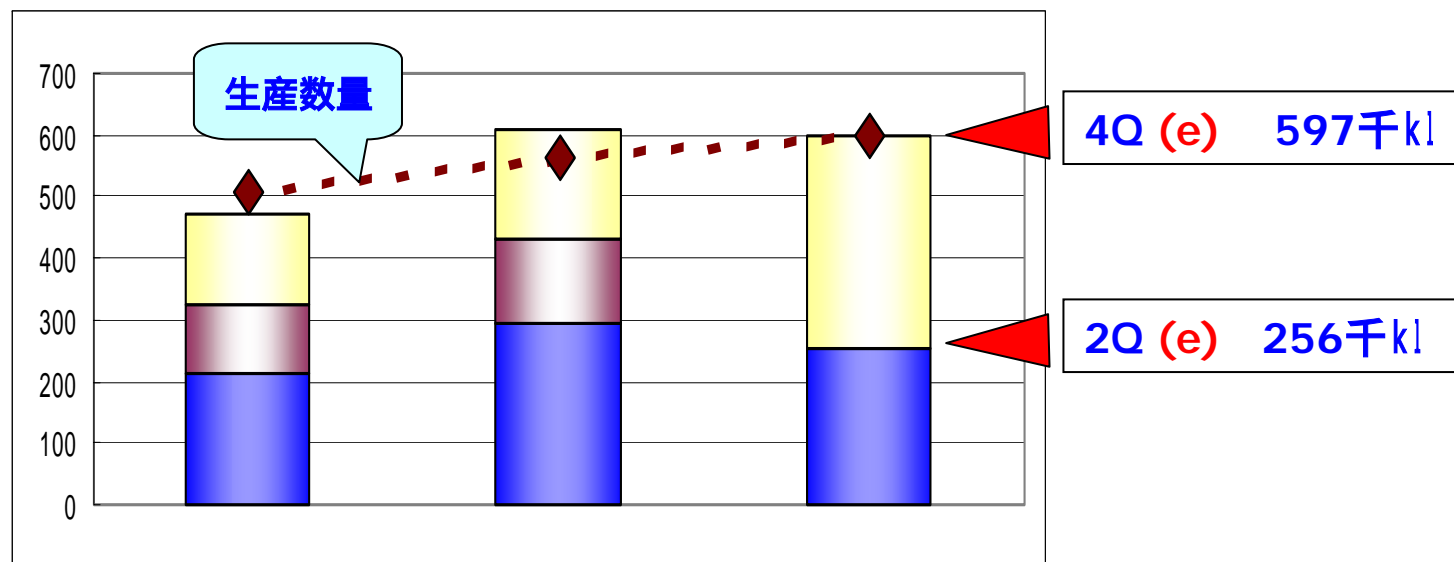
サマリー

(百万円)	15/3(a)	16/3期 実績		17/3期 見通し		増 減	
		中間期	通期	中間期	通期	中間期	通期
売上高	90,683	42,352	96,713	37,100	84,163	5,252	12,550
営業利益	15,828	5,679	12,449	1,056	9,123	4,623	3,326
経常利益	12,769	7,169	14,468	2,518	11,313	4,651	3,155
当期純利益	8,828	4,762	9,960	3,055	9,556	1,707	404

-  **国産原油販売** - 数量横ばい。28\$/bbl、105円/\$ 想定で単価下落。
-  **天然ガス販売** - 北海道は続伸も、電力向け販売量減少。
-  **託送収入** - 東北電力向け託送収入の増加。
-  **探鉱費、償却費** - 探鉱費 10億円、償却費 28億円増加。
-  **新南海連結** - 子会社化で増益要因。その他、国内外の関連会社も寄与。

国産原油販売

千KL

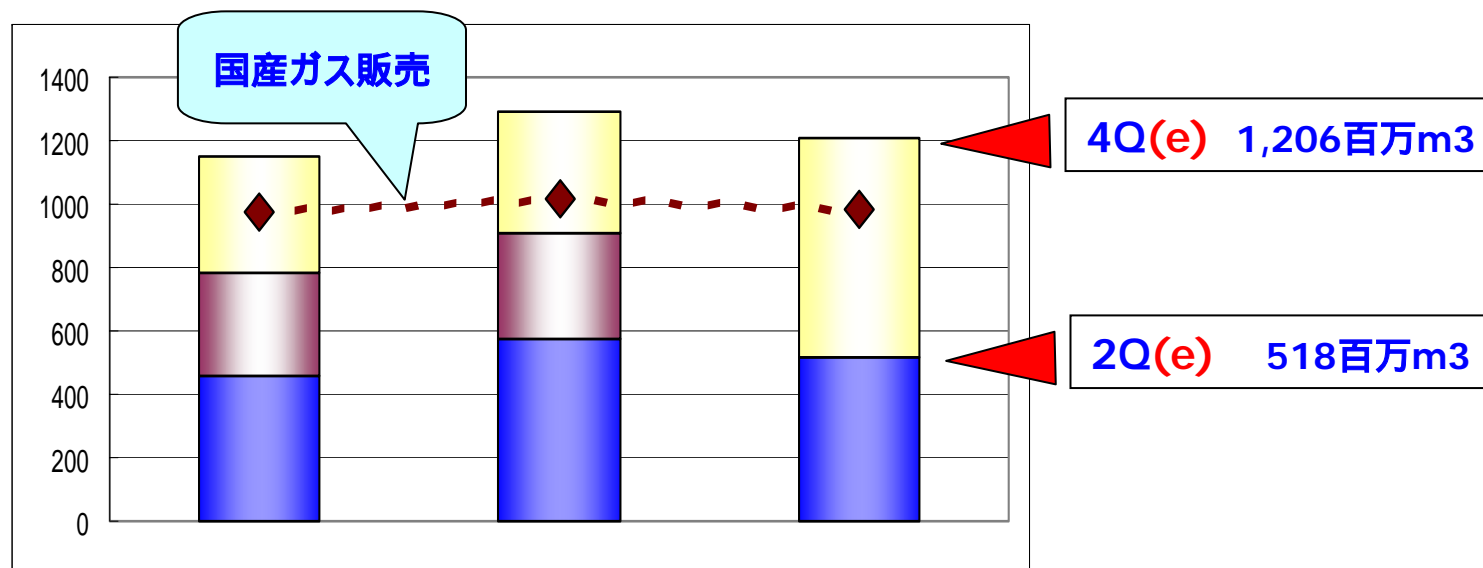


	15年3月期	16年3月期	17/3 (e)	対前年比
生産数量 (千KL)	505	571	601	+30
販売数量 (千KL)	472	606	597	9
平均単価 (円/KL)	@21,680	@21,071	@19,347	@ 1,724
油価 (\$/bbl)	26.50	29.37	28.00	1.37
為替 (Yen/\$)	122.86	113.71	105.00	8.71
売上高 (百万円)	10,237	12,784	11,558	1,226

17/3期 見通し

天然ガス販売

百万m3



	15年3月期	16年3月期	17/3 (e)	対前年比
販売量 (百万m3)	1,154	1,296	1,206	90
売上高 (百万円)	41,479	42,560	37,886	4,674
平均単価 (円/m3)	@35.92	@32.83	@31.42	1.41
当社国産ガス ¹ 販売量	976	1,024	985	39
// 売上高	35,218	33,813	30,765	3,048

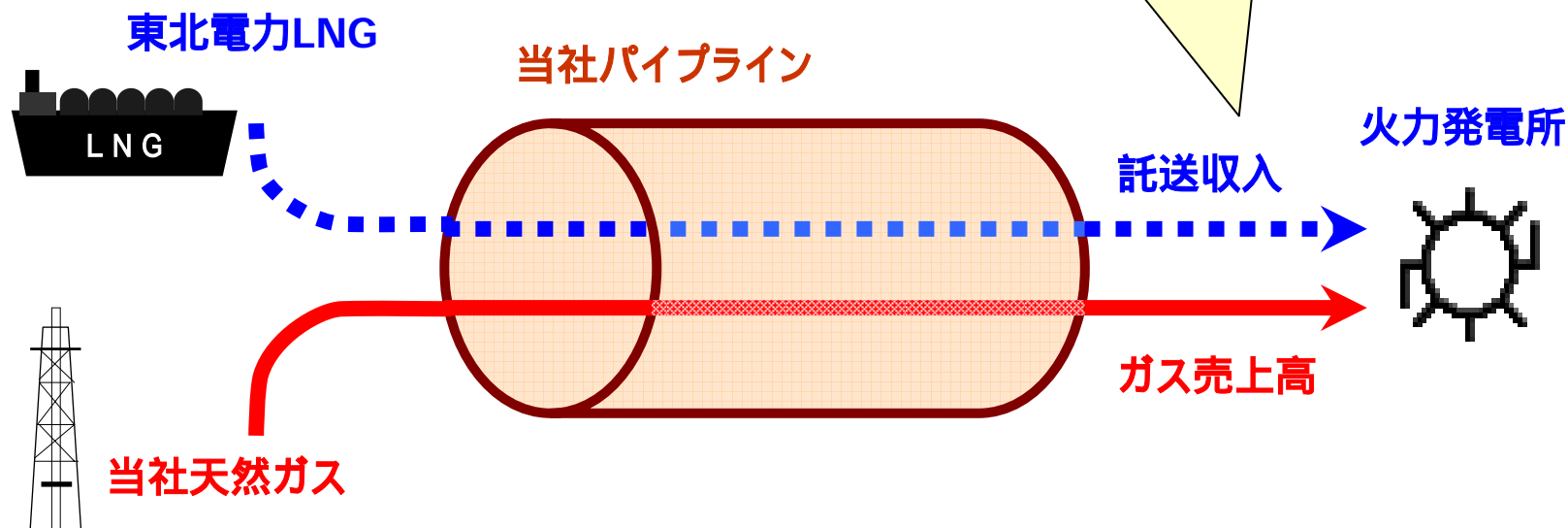
注1: 連結子会社の日本海洋石油資源開発(株)(JPO)からの買入販売分を含む。

託送収入 - 東北電力との新たな託送契約の実施

平成16年1月1日より実施

託送契約

- ・ 長期契約。
- ・ 託送収入の安定化。



売上構成の変化

百万円		15/3(a)	16/3(a)	17/3(e)
原油販売		30,743	32,963	23,919
天然ガス販売	数量(百万m3)	1,154	1,296	1,206
	単価(円/m3)	@35.92	@32.83	@31.42
		41,479	42,560	37,886
LNGサテライト販売		3,058	3,837	4,648
原油・天然ガス事業部門 計		75,281	79,361	66,453
請負事業部門		5,815	7,049	6,391
託送収入		2,157	2,986	5,436
その他 (LPG、石油製品等)		6,233	6,227	5,008
その他事業部門 計		8,390	9,213	10,444
地熱事業部門		1,196	1,089	875
売上高 計		90,683	96,713	84,163

新南海石油開発(株)の連結化

プロジェクト概要



中国珠江口沖 Lufeng 13-1油田

- ・ 生産開始: 93年10月
- ・ 鉦区期限: 09年2月
- ・ 年間生産量 718千KL (03年1月~12月実績)

パートナー	中国 CNOOC	25%
	新南海石油開発	30%
	新華南石油開発	30%
	日鉦珠江口石油開発	15%

新南海 会社概要

株主構成

当社	32%
石油公団	50%
その他	18%

会社概要

資本金	3,100百万円
総資産	4,642百万円
純資産	4,414百万円

年間販売量

198千KL (03/12期実績)

業績の推移

百万円

	売上高	経常利益	当期利益
01/12期	4,505	2,742	1,941
02/12期	3,627	1,206	774
03/12期	4,151	1,890	897

新南海石油開発(株) 株式取得の影響

上半期 - 海外投資等損失引当金の取り崩し
 事業損失引当金の計上

中間純利益への影響額
858 百万円

下半期 - 連結化

	連結PL影響額 (内部取引消去後)
売上高	-
営業利益	896 百万円
経常利益	914 百万円
当期純利益	485 百万円

17/3期 見通し

営業外損益

営業外損益の主要項目と17/3期見通し

(百万円)

		16/3(a)	17/3(e)	増減
受取利息		1,192	1,191	1
支払利息		346	268	+ 78
受取配当		1,298	1,239	59
持分損益 + 海投損	国内関連会社	101	682	+ 581
	海外既存プロジェクト	736	480	256
	海外新規出資(海投損)	205	657	452
小計		633	505	128
その他 (ネット)		759	477	+ 282
営業外損益 計		2,018	2,190	+ 172

関連会社の
固定資産譲渡益。

注: 「増減」欄は、増益要因を+で、減益要因を-で記載。

17/3期 見通し

連結PL 変動要因

百万円

	16/3(a)	17/3(e)	増減
売上高	96,713	84,163	12,550
売上総利益	38,653	36,096	2,557
探鉱費	5,213	6,231	+ 1,018
販管費	20,990	20,742	248
営業利益	12,449	9,123	3,326
営業外損益	2,018	2,190	+ 172
経常利益	14,468	11,313	3,155
当期純利益	9,960	9,556	404

国産原油販売 12 億円
数量横ばい。円高で単価下落。

国産ガス販売 30 億円
電力向け販売減少。

託送収入増加 + 24 億円
勇払LNG増販 + 6 億円

生産部門償却費増 24 億円
国内探鉱増加 10 億円

新南海連結効果 + 9 億円

新南海 引当金調整 + 8 億円

税金費用減少 + 18 億円

注：変動要因の説明は、増益要因を+で、減益要因を-で記載。

今後の事業展開と当社の戦略

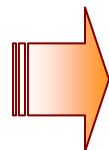
代表取締役社長 棚橋 祐治

天然ガス事業の環境変化

改正ガス事業法施行

2004年4月1日より、

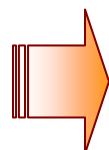
- ・ 大口供給自由化範囲の拡大
(100万m³ 50万m³)
- ・ ガス導管事業の創設。
- ・ 都市ガス会社、電力会社、
国産天然ガス事業者の保有
パイプラインが開放対象に。



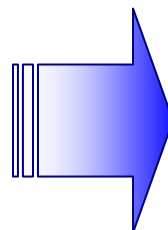
事業機会が増大するとともに、
競争はますます激化。



当社グループ保有のパイプラインも
「ガス事業法」上の「特定導管」として
託送義務が発生。

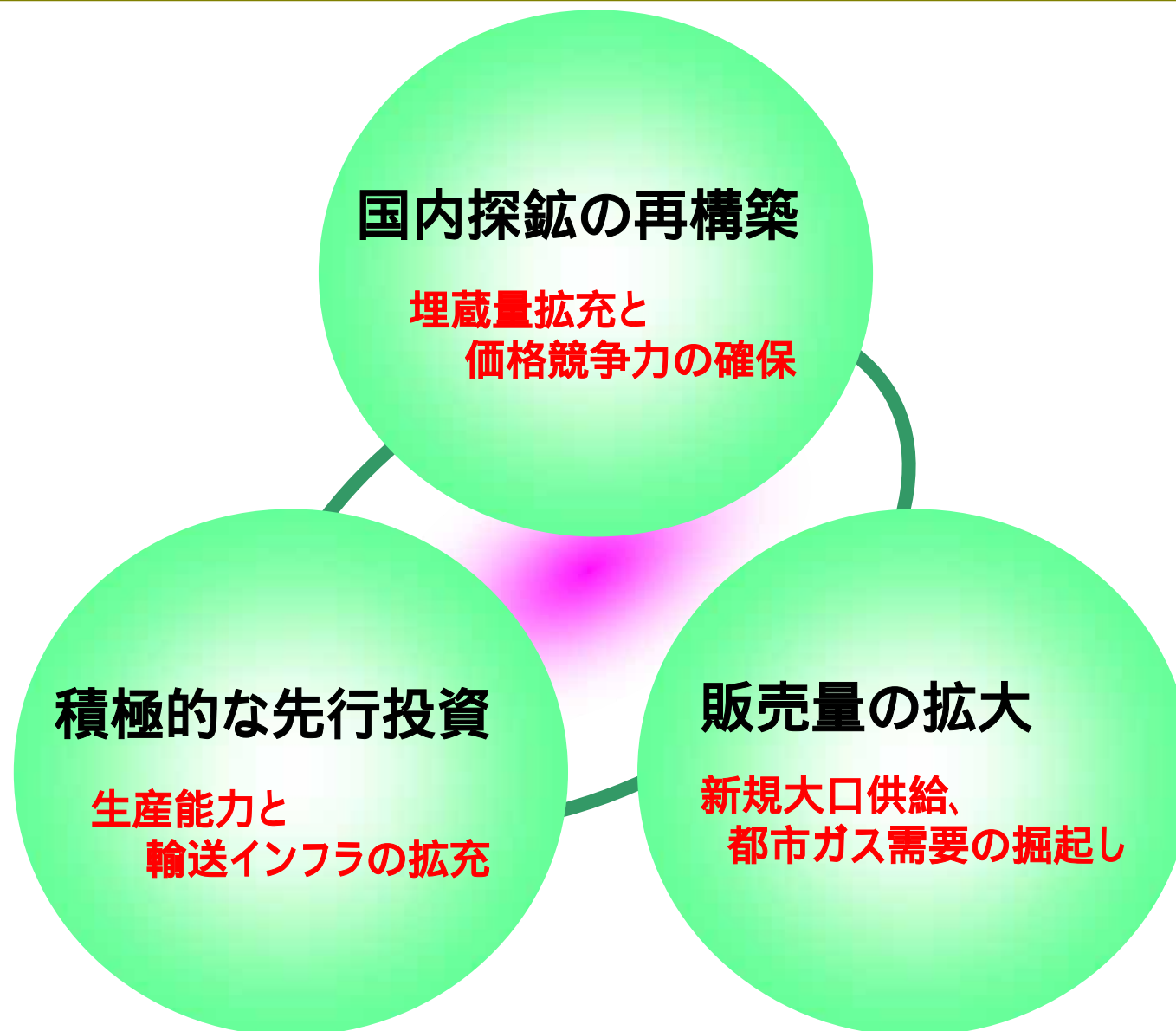


4月1日付で「ガスパイプライン事業
室」を設置。

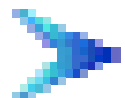


本格的なガス物流時代を迎え、
天然ガスパイプラインは、ま
すま
す重要な位置付けに。

天然ガス事業拡大の基本戦略

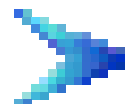


国内探鉱の再構築



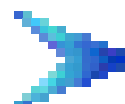
基本認識 -

ガス市場の競争激化を迎え、コスト競争力の強い
国産ガスソースの拡充が必須。



戦略 -

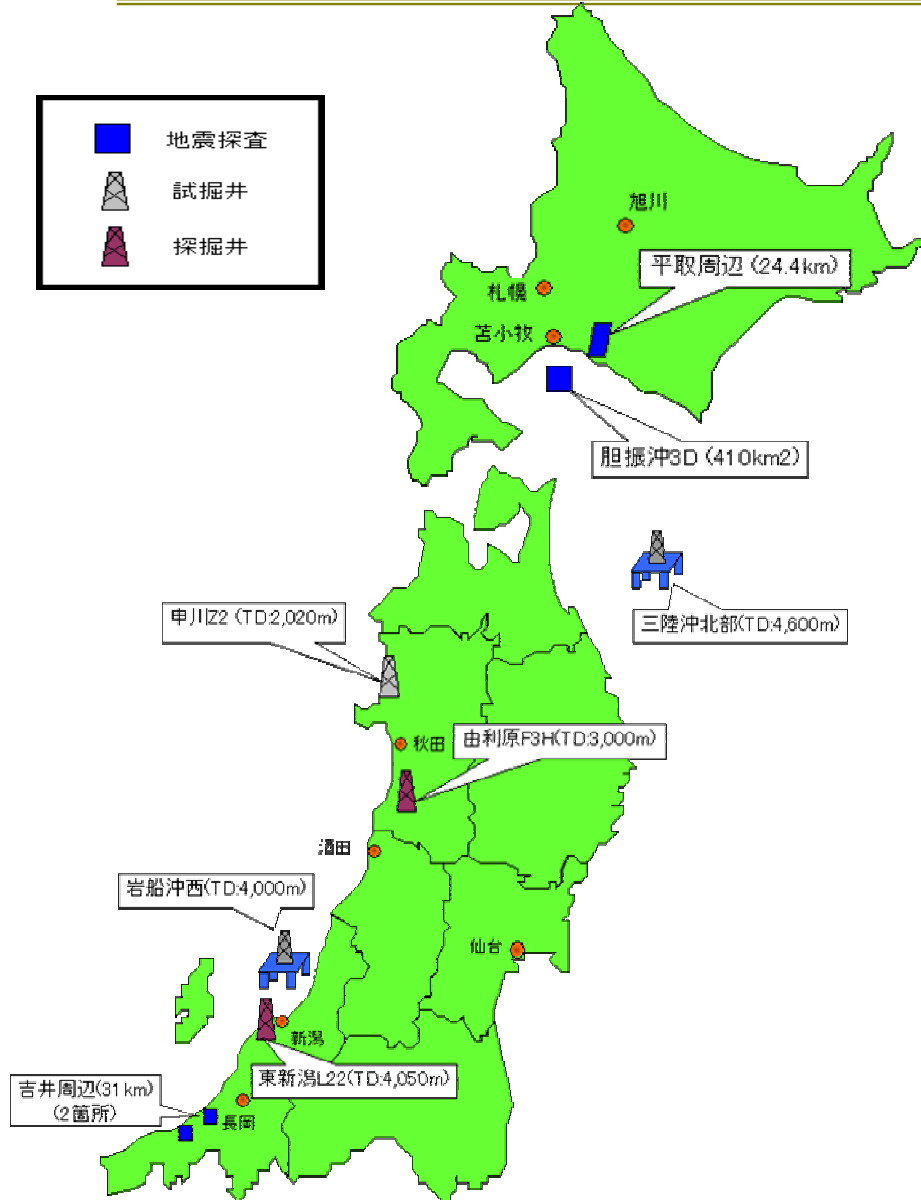
既存油ガス田の拡大(フィールドグロース)と、
大規模埋蔵量の発見を目指した探鉱との**効率的組合せ**



重点地域 -

- 新潟及び岩船沖周辺
- 秋田周辺における原油埋蔵量の追加
- 北海道(胆振沖)、三陸沖の新規探鉱

17年3月期 国内探鉱計画



17/3期の国内探鉱

地震探査

胆振沖3D作業ほか

試掘

三陸沖北部 (4,600m)

岩船沖西 (4,000m)

申川Z2 (2,020m)

探掘

東新潟L22 (4,050m)

由利原F3H (3,000m)

設備投資計画

勇払設備増強

16年3月期で一巡

勇払LNGプラント

16年3月期 完成

由利原能力増強

17年3月期計画

福島・郡山ライン

17/3 ~ 19/3期

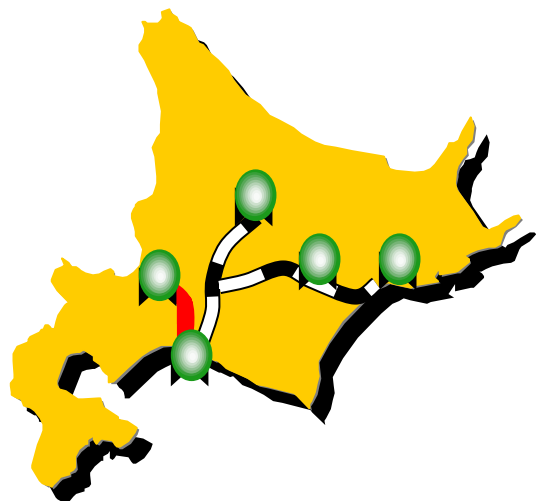
強固な収益基盤
への布石

当面の設備投資計画と償却費見通し

(億円)

	16/3(a)	17/3(e)	18/3(f)	19/3(f)
投資額	157	140	156	156
償却費	110	138	124	123

ガス拡販計画

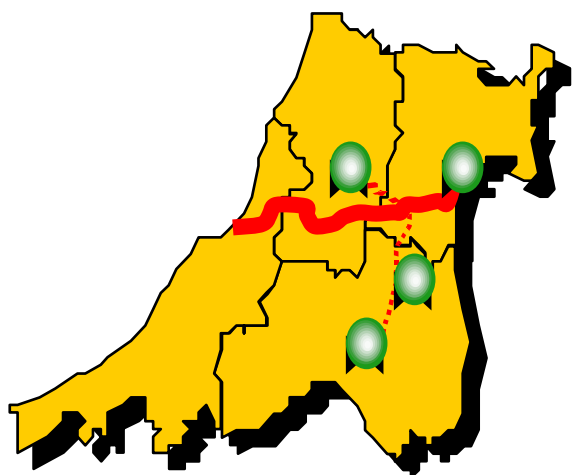


➤ 北海道拡販

- ・ 北海道ガス向け増量続く。
- ・ 苫小牧ガス向け新規供給開始

➤ 勇払 国産LNG供給開始

- ・ 03年10月 旭川向け出荷開始
- ・ 07年以降、帯広、釧路へ順次供給開始。



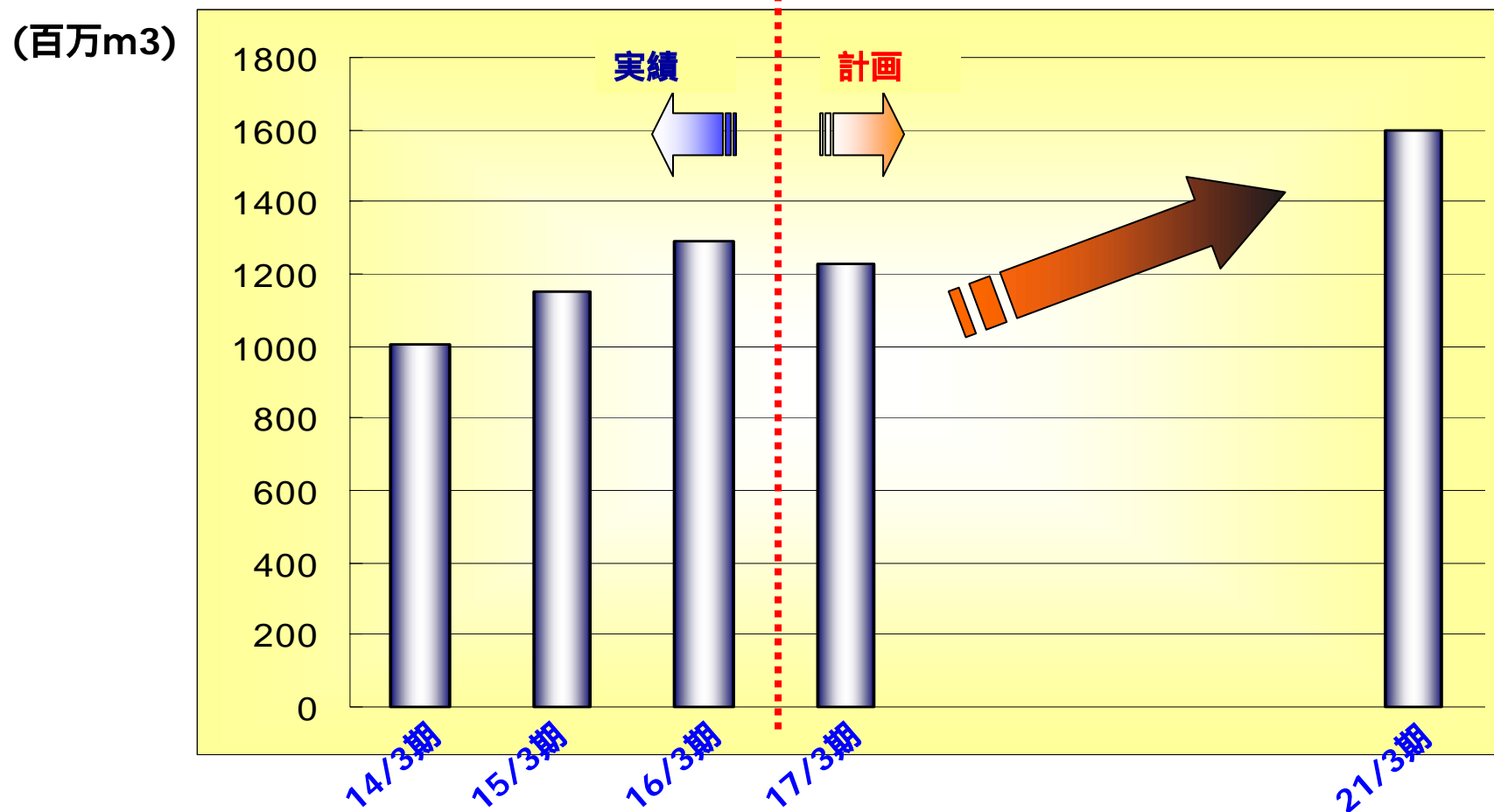
➤ 仙台パイプライン沿線の拡販

- ・ 仙台市ガス向け拡販続く。
- ・ 山形、福島、郡山へ順次供給開始。
- ・ 福島・郡山沿線の産業用ユーザー開拓に注力。

注： 仙台パイプライン沿線の販売は、関連会社の東北天然ガス㈱を經由。

ガス販売計画

天然ガス販売計画



注：販売数量は、勇払国産LNG供給を含み、本州のLNGサテライト供給数量を除く。

海外事業の展開

基本認識 -

海外においても安定的収入を確保するため、東南アジア、サハリン、中東などを**重点地域**として事業展開。

戦略 -

相対的にキャッシュフローの回収が早い**開発型案件**と、ポテンシャルの高い**探鉱案件**の**ポートフォリオバランス**。

石油公団保有株式の売却 -

当社**事業戦略**に合致する**プロジェクト**については、株式取得に向けて検討。